

平成23年3月15日

地域連携専門部会の報告

宇治市小中一貫教育推進協議会
地域連携専門部会
部会長 山添 泰

小中一貫教育を推進する上で、その土台となる地域社会が、小・中学校9年間を通してどのように、児童・生徒、あるいは学校と関わっていくかを検討してきました。

検討項目として、次の3つの柱に沿って協議を行いました。

- (1) 中学校区におけるイベント・地域行事について
- (2) 学校教育への地域・保護者の関わりについて
- (3) 既存の学校ネットワークを、中学校区単位で連携・再編するについて

- (1) 中学校区におけるイベント・地域行事について

「子どもが育つ場」をつくる。

- ・ 現在、地域の実情にあった形で、小・中学生も参加しているイベント・地域行事は行われているが、大人が主体となってほとんどお膳立てしているため、子どもがお客さんになってしまっている。企画の段階から子ども（特に中学生）に関わらせて、子どもをイベントの主体としていく。

- (2) 学校教育への地域・保護者の関わりについて（学校運営協議会への視点も含み）

学校が求める人材をより多く確保する。

- ・ 地域の人といわれている人が、固定したメンバーになってしまっている。各分野・年代からもっと多くの新規「地域の人」の発掘が必要。
- ・ 社会人講師をもっと幅広く募集し、一地域だけの人材にとどめず、市全体の人材としていく。

- (3) 既存の学校ネットワークを、中学校区単位で連携・再編するについて

教育委員会が、全組織をあげて小中一貫教育を進める。

- ・ 小中一貫教育課以外の課も、中学校区単位での取組を進める。

学校から地域への情報発信のよりよい方法の提案

- ・ 市立小・中学校のホームページを携帯で閲覧可能にしてほしい。